

10/2あり方検討意見交換会(榛原)

G	数	タイトル	意見	理由
1	1		20年後 小学校3校、中学校2校 学校が公民館的な機能を持つ ⇒高台に1校。	小学校と公民館を一緒にする。学校を使いたい。
1	2		20年後の学校 ・高齢者が多くなる社会で学校は空き教室ばかり増える。 ・学校の一部を年寄りのデイサービス化する。	・子どもたちに年寄りを敬う気持ちと会議の大切さを学ばせる。 ・年寄りはいきた教材。
1	3		学校にさまざまな年代の人が関われる空間・時間をつくりたい。	園児、小学生、中学生、高校生、地域の大人まで、人との関わりが心を育むと思うから。 そして、新たな発見や可能性を広げることができる。
1	4		公民館、コミュニティホールとして学校を開放。 そこで、共働きの家の子どもと高齢者だけで住んでいる人との交流をしたい。	・高齢者から子どもにいろいろなことを伝える。 ・昔の遊びを伝える。 ・子ども同士の交流⇒異学年の子とけんかしたり、触れ合ったりして交流。
1	5		たくさんの人と関わるができるスペース ・地域の人自由に入出りできる公共施設(図書館、プール、老人ホーム等)を集める。その真ん中に学校がある。	・多様な価値観と触れ合わせたい。 ・地域の人とつながってほしい。
1	6		異校種の生徒、児童、園児の交流の場(施設)	昔のように地域のいろいろな人が集まっている学び、成長し合いたい。もちろん、大人の交流の場としても。
2	1	地域に関わること 地域を守る ↓ 地域を好きになる (リターン)	向こう三軒両隣が分かる教育	
2	2		全国区に出て、故郷に戻る気持ちを育成	
2	3		軒先運動を続けたい。	学区が広くなっても、子どもたちは毎日登下校する。安全対策は必要。(いつになっても)
2	4		・将来的に自由教育になるのでは？ ・児童数の減少により地域との交流の場がなくなる。⇒農休み	・中学生⇒学力向上 ・小学生⇒学校生活の充実

10/2あり方検討意見交換会(榛原)

G	数	タイトル	意見	理由
2	5	今後の教育	学校の中で「公平」を作り出す手立てがたくさんほしい。 ・外国人のサポート(バイリンガル) ・支援を必要とする子のサポート(支援員)等	これからの社会のキーワードは「共に生きる」ことではないか。年齢構成の単純な変化だけではなく、その人たちが抱えているさまざまな「困り感」「事情」も変わってきている。多様な人を受け入れるコミュニティと少しでも同じ立場で接することができる社会をつくりたい。
2	6		学校生活の中で、一つのことに関心を掛け、努力して達成感を味わえるような行事(イベント)がほしい。	本当に「身のある教育」とは何か？学力をつける場ではない。体験が大事。子どものための教育とは、レールを敷くことなのか、たくさんの体験を積むことなのか？
3	1		地域での取組。 地域が主体となることは考えないでほしい。(学校との目標化)	
3	2		地域の負担を考えて学校をつくる。	
3	3		①読み聞かせ ②野菜を育てる	①戦争の話など聴きたい。 ②おじいちゃん、おばあちゃんに教えてもらう。
3	4		勝小が誇る「きらり農園」の継続。	学校の人たちと地域の人たちとで、一緒にとうもろこし、落花生、夏野菜などを作って、収穫を祝い、料理していただくことを続けていきたい。食に関することはもちろん、自然の恵み、感謝の気持ち、そして地域や学校へ愛着を持たせたい。
3	5		地域の行事(いいものは残したい) ・お祭り・区民大会・校内運動会(住民参加)・スポーツ少年団	
3	6		地域の人々が先生となって、子どもと共に活動できる学習内容。 例:生産活動、地域のよさを知るなど	
3	7		誰でも通える学校。幼、小、中、高など決めずに一生学べる。	多様性。学びは大学までではない。
3	8		10~15年後の学校のイメージ 小中一貫校のモデル校	高台開発が成功すれば、各学年2クラス化
3	9		学びって楽しいなを感じる学校	新しいことを知る喜びを持たせる学校教育※学校はなくさない。

10/2あり方検討意見交換会(榛原)

G	数	タイトル	意見	理由
3	10		世界とつながる学校	牧之原市にいながらにして世界とつながることができる。いろいろな価値観に触れることで自分の生き方を考える。
4	1		コミュニティ総合小中学校をつくる！ 基本は総合小中学校で学び、地域ごとの特色ある教育は地域の学校で学ぶ。 (相良:塩づくり・田沼、菅山:くり、萩間:自然薯、牧之原:自然薯・お茶、川崎:静波海岸、勝間田:レタス・田んぼ、坂小:みかん・仲よし学校)	人がなくなっても小学校の校舎は残して、地域のよさを学べる場とする。
4	2		子どもがつくったものを、「こども道の駅」で売る。	キャリア教育
4	3		市民プールを土日有料開放	
4	4		高尾山の仲よし学校	1～6年生の縦割り。コミュニケーションでつながっている。
4	5		・田植えから刈取り、もちつきまで農作業の仕組み ・お茶のできる仕組み等地域との関わり	地域の事業は大人になっても覚えている
4	6		地域全体で子どもを育てる仕組み ・防災訓練・祭・キャリア教育・まちはらはら	まずは市民の意識改革(パラダイムシフト) 学力だけでなく、人間力を育てるためには、多様な考えが必要だから。
4	7		長期の休みに集まれる場所をつくりたい。 共働き、核家族が増える中、児童クラブ等に通わない児童を対象に集まれる場所。そこで、地域の人たちの力を借りていろいろな体験をさせる。	小学校4～6年生の児童クラブに通わない子どもが暇を持て余してゲームばかりになってしまう。 特に夏休みは猛暑だと外でも遊べず、学校のプールも中止で行き場がない。
4	8		子どもたちの登下校の見守りを続けてほしい。 朝や帰りに通学路に立って子どもたちを見守り、横断歩道を渡る時は旗をもっていただく。	教員が見切れない登下校の様子を伝えてくれて助かる。子どもたちが安全にと下校できる。
4	9		子どもたちと地域の人との交流を図れる場。	日頃からの地域の人へのあいさつやイベントができる場を設ける。
5	1		もちつき、米作りから教えたい。しめ縄づくりもできる。	新しい材質等で生産されているさまざまなものを自分の手で加工し、その物づくりの手法を残したい。
5	2		・地域の人との野菜づくり ・地域の場所を使つての通学合宿 ・中学生と小学生の交流の場 ・自分の意見を言えるようになる授業があるとよい。	
5	3		・絵本の読み聞かせのボランティア はずっと必要だと思う。	
5	4		・幼稚園・保育園間の交流があるとよい。	

10/2あり方検討意見交換会(榛原)

G	数	タイトル	意見	理由
5	5		・小中連携スペースとその場を見守る人がほしい。その場で地域の人と交流ができるのもありかも。	郷土文化を知る場
5	6		・コミュニケーションを取るのが苦手な子、軽い発達障害がある子には細やかな定期サポートをしてくれる人が必要。 ・異年齢での交流を定期的に。	
5	7	子どもが将来社会で生きていくために、教育現場に大人が立ち入る	子どもがこれからの社会で生きていくため、社会からのフィードバックをできる限り子どもに与えたいので、大人の職業体験、職業の知恵、小中学生に情報を与える機会や仕組み、プログラムをつくりたい。	
5	8		・クラス替えで新しい友達との出会いを。 ・農業等、海のこと、工場のことなど教えてくれる人がいるといい。地域を小学校区でなく、市全体で捉えられるといい。	・大勢の子どもがいて、大勢の大人に囲まれた社会が学校にあるといい。 ・一人の子どもに大勢の大人が後ろにいてくれるといい。(関わる)
5	9		全部一か所集中複合施設 ・保幼小中高、老人ホーム、図書館、体育館、ショッピングセンター、い〜らのようなホール、公園等	教育は連携しやすく、駐車場ばっちり。市民の集まりやすい環境で津波なしのところ。 人がいるところは低いところ、でも理想は高台？広い土地あるか？遠い人もいる。
6	1		小学校で農業体験、中学校で職業体験を計画的に行う。	・地域の特産物を知り、将来の可能性を考える機会。 ・新たな職業にも目を向けさせたい。
6	2		職場体験+農業体験+地域清掃	牧之原市特有の仕事(魅力)を伝える。地元のいいところ。 外に出かけていろいろなものを見る・知る。場所へ行く。
6	3		勝間田地区の行事 (勝間田城址祭、みやまつじ祭、ゆうゆうランドの活用、通学合宿、みやま農園)	地域の伝統、歴史の勉強
6	4		ファミリーバトミントン、グランドゴルフ等スポーツで交流できる場	
6	5		いつでもくじけない心が必要。	これがあれば何でもできる。最後にはこれで決まる。
6	6		小中学校の子どもたちが交流できる場所。	学習を教え合ったり、スポーツ(部活)と一緒に遊びながらできたら。
6	7		子どもの社会力が育つ場づくり 土日のあり方を具体的に考えたい。 教育課程と地域の力、人、文化をどうかかわらせるか。	学校週5日制発足時は、学校と社会、地域の連携が叫ばれたが、ほぼ実現できなかったのが、今取り戻したい。

10/2あり方検討意見交換会(榛原)

G	数	タイトル	意見	理由
7	1	ICTによる主体的・探究的な学び	学習者主体の学び。企業や校種の垣根なく。	自分の興味を探究できる学校。(高校との連携・NPOや企業との連携)
7	2		自分の明るい未来を想像・創造できる場であってほしい。	
7	3		少子時代に入るが、ICT等の時代に即した施設で教育。本校は、資本を集中し、社会の一部として機能させ、地域との交流はサテライト施設があればよいのではないか。	金がない、田舎だからとあきらめてしまえば、子どもたちの未来の選択を狭めかねない。
7	4		地域と学校が意見を共有して進めるときに、子どもの権利を代弁する者は必ずほしい。	
7	5		教室だけでなく、家庭でも公共施設でも学べるICT環境	オンラインで先端研究や企業とつながる
7	6	図書による学び	図書室(勉強スペース)今よりもたくさん本と出会いがほしい	本から学ぶものが多いから。想像力、読解力など
7	7	豊かな自然	海を利用した授業	海の怖さ、楽しさを教える。先生が大変だけど、ライフセーバー監視のもと。危険を知ること大事。
7	8		子どもたちが自由に遊べる場所	・危ない、きたない、そんなことではいけない、ということができる ・違う年齢の子が集まれる。
7	9	豊かな人間関係	小中一貫教育を実現したい。	学年間をどう構成したらよいか。けじめある学年間を望む。交流し過ぎに注意が必要。後ろに立たれるとつらい。
7	10		幼小中高など多様な人が触れ合える学校	子どもは人と人との間で育つ

10/4あり方検討意見交換会(相良)

G	数	タイトル	意見	理由
1	1		・地域の人と交流できる場 ・農産業の手伝い。自然を通してコミュニケーションできる場	校内だけでは足りない体験、交流ができる
1	2		小中学校の統廃合を進め、牧之原市の特色が出せる教育を行う。	
1	3		学校選択制(特色ある学校づくり)市内に3校つくる	保護者が選択できるようにする
1	4		いろいろな人たちと関わることができる学校になってほしい	子どもたちのコミュニケーション能力を高めたい。小さい学校だとコミュニケーションの幅が狭くなってしまうため、地域の人たちと関わる場も必要
1	5		生徒数を補うためにも、いろいろな文化を持った人たち(外国人)が交流できる場があったらいいと思う。	コミュニケーション能力が高められる。
1	6		都会と同じような教育を受けられる環境。	牧之原市では、「質の高い教育ができない」「就職できない」という理由ですばらしい人材を流出したくないから。
1	7		捨てていいものは何か、捨ててはいけないものは何か。箱物は(耐用年数を踏まえ)壊してください。	
1	8		安心・安全、震災に対応できる学校を高台へ。	災害から子どもたちを守りたいから。
1	9		庁舎は2ついらない。1つにしてください。	
2	1		生徒一人一人に目が届く学校	いじめ、不登校が年々増えてきている。集約してマンモス校をつくるのではなく、ほどよい人数にしてほしい。
2	2		東南海地震の可能性が高まっています。津波浸水区域にある50~60年経っている古い学校は高台の安全な地域に移すべき。	子どもの大切な命は守るべき。
2	3		10~15年後の学校デザイン(牧之原市全体で280名) 牧之原榛原地区学校(相良にもう1校) ・幼稚園・保育園、小中学校をまとめて教育する学校をつくる。 ・その中には、地域のコミュニティセンターも存在する。 ・外国人に日本語を教育する日本語学校もある。 ・遠くから通学する学生には、スクールバスを活用する。 ・介護施設も設置する。	
2	4		有効活用できる学校施設	学校と地域との垣根を低くするため。(今より)
2	5		インターネットをつかえる	授業で分からないことを調べたいから。調べることができれば授業で困らない。

G	数	タイトル	意見	理由
2	6		世界につながる教育。言語、人との関わり	人口減少に伴い、視野を広げる必要性。いろいろな人や機会に触れる機会。
2	7		・望ましい教育環境。地域の大切さをもっと考えてほしい！生まれ育った地域をもっと知ってほしい！ ・校舎内に地域の人が活動できる場所がある。逆に、地域に子どもたちが活動できる場所・イベント等がある。	
2	8		子どもたちが出したアイデアをどれだけ地域が吸い上げられるか！	
2	9		子どもたちが夢を持てる場所。本物に触れる。	主体性、意欲。 学ぶ必要感、学ぶ喜びを感じる。
3	1	つなげていく	牧之原ならではの農業、産業、自然をたくさん体験してほしい。	自宅や塾での学習等、知識を身につけるだけではなく、実際の体験ができるとよい。家庭ではなかなか体験が難しいため。
3	2		住んでいる地域の特色ある体験	地元のよさを知る。資源を知る。継続的にやっていく。
3	3	グローバル	牧之原にしながら世界とつながる	牧之原の自然を体験しながら、グローバルなコミュニケーションが取れる
3	4	交流の場 複合施設	地域の老人の憩いの場を設ける	老人とのふれあい
3	5		大きな図書館と学校が一緒になった施設を造る(図書館にはさまざまな学習スペースや分かれた場所がある)	子どもたちが他人に遠慮なく読書できるといい。
3	6		学校が地域の交流、余暇を充実させる場。子ども、高齢者、障害者、病気の人、みんなが学べる場になってほしい。(土日もある)	子どもにとっても市民にとっても生きがいを感じられるまちになってほしいため。家族の会話のタネになる。
3	7		誰でも学び合える学校	知識だけでなく、いろいろな人の知恵をお互いに学び合う。 卒業がない。いつでも学び直せる。
3	8		多くの人とコミュニケーションができる学校⇒子どものコミュニケーション力の向上	ICTの進化により、人と人とのコミュニケーションをとる機会が減ってきている。「考え方」にあるように、図書館、公民館、地域の人の活動スペース等と校舎が一体となっているとコミュニケーションの機会が増えるだろう。
3	9		フラットに楽しく話し合える場	コミュニティスクールなど

G	数	タイトル	意見	理由
4	1		相良地区、榛原地区にそれぞれ、こども園、小学校、中学校が隣同士の建て方をしてほしい。	一貫校ではなく、連携という形がよい。 校舎はなるべくやや高台に、2階建て程度で避難訓練があまり必要がないように建ててほしい。
4	2	学校などの立地条件が心配	防災的に安全な場所への小中学校の集中化。津波等被害が予想される学校は内陸へ。 例：川崎小を榛原中学校の周辺に。将来的には小中一貫校へ。空き教室は地元の公共利用スペースとして活用。	
4	3	学校とは別に	学校の近くに1個は勉強にも励めて、子どもが安全に遊ぶことができるスペースが必要。	図書館だけだと確かにゆっくり本を読んだり、勉強はできるが、なかなかほかどらないし、集中できない。遊びたい。 親なら自分の子どもが騒いでしまって迷惑をかけてしまうなどということもあるかも。学校だけだと教師が目が届かない場所でトラブルなどが起きてしまう可能性も。
4	4		体験できる場所。何でもいから体験できる場所がほしい。例えば木登りなど。	ダメなことをしないのではなくて、けがをしない方法などを考える場所
4	5		図書館を中心に、周りに小学校、中学校、高校、相良城(史料館)がある。史料館は学び直し学校として公民館的に活用。旧市庁舎は1階は老人ホーム・ケアセンター、2階は幼保園。	
4	6		学生以外も使えるプール	地元のコミュニケーションの場となる
4	7		学校に近い場所に大きな図書館	・本から学べることが多いから。 ・地域の人を入れるし、子どもたちも入れるので、そこでコミュニケーションが取れる。 ・勉強ができるスペースも…。

G	数	タイトル	意見	理由
5	1	これからの学校	1校にまとめて公的な通学手段を整える。3校つくる案とコストの比較をして、可能性を考えてみる。 図書館と文化ホールなどの文化施設と合体させ文化ゾーンとする。	
5	2		10～15年後 小学生と中学生、中学生と高校生といったような世代を超えてディスカッションできる時間を作れば、考え方の幅が広がり、1人1人の主体性につながると思う。	
5	3		小学校から中学校までの小中一貫教育は無理な感じがします。6～8歳、12～15歳は子どもと大人の差。中高一貫の方が合理的。ただし、高校は義務教育ではないのが…。	
5	4		相良地区、榛原地区という古い目線ではなく、牧之原市全体で配置を考える。	
5	5		学区制を廃止し、仮に3校に集約した場合、それぞれに個性を持たせ、選択できるようにする。	
5	6		1学級20～24人程度。世界一の学校、フィンランドの教育を参考。	・子ども一人一人丁寧な指導がいきわたる人数 ・大人数だと、誰かが言うだろう、やるだろうの意識が人間として働く。少人数なことで「自分がやらなければ！」の意識が働く。
5	7	地域との関わり	地域の人のご厚意で日頃体験できないことをしてもらえる環境を残したい。	・畑を借りて、じゃがいも・さつまいも等の収穫。 ・幼稚園内にあるはたんぼや畑を使つての作業。(土ならし等も含む) ・地域の人たちの協力で自分たちがつくつたじゃがいもなどを自分たちでいただく。 ・子どもの遊びもできる
5	8		地域の人に地域のことを教えてもらえる学校	地域のよさは地域の人から直接話を聞いて初めて実感でき地域を好きになれる。
5	9		あたたかな給食を食べることができる	
5	10	施設	地域の人々がさまざまな目的やイベントで集まれるような複合施設をつくってほしい(例:島田ローズアリーナ)	
5	11		各教室Wi-Fi完備	
5	12		全天候型グラウンド	運動会等の行事で、雨天で土日の動きが左右される。せつかく新校舎になるときはグラウンドまで配慮を!

G	数	タイトル	意見	理由
6	1	地域力	地域の文化を守り、安心安全で文化の香りを創出する学校	今のままでは少子化がどんどん進んでしまう。市の施策として子育ての時期に牧之原市に住みたいと思える具体をもっと出してほしい。統合することがよいこととは思わない。地域には地域のよさがあり、そのよさを地域と学校が共有することが大切。
6	2		地域との関わりを残す	地域の歴史・文化を学ぶことがアイデンティティや地域愛につながる。
6	3		地域の人たちと一緒に遊び心いっぱいの学校	学校は子どもたちだけの学び場ではない。地域と共にたくさんの人が関わり、学び合える場でありたい。その中で子どもたちが自己実現させていけるような学校でありたい。それが、社会に開かれた学校では？
6	4		地元企業のカ	地域とは住民だけでなく、地元の企業も含む。市の未来人財育成の視点で。
6	5	パラダイムシフト	常識破りのことがあってもいいのでは？ 牧之原市ならではのオンリーワン学校	10年後すら先の見えない時代。今まで通りの価値観では化石化していくだけでは？ 常識を外すくらいの気持ちで、オンリーワンの学校であってほしい
6	6		市民のパラダイムシフト	固定概念を無くし、市民、地域が子どもを育てる仕組みが必要
6	7	人間力	コミュニケーション力の向上	現代では、スマートフォン、SNSなどによって対人的な関わりが減っているから。
6	8		主体性、積極性のある人材の育成	地域との交流に積極的に参加する
6	9		学力・専門性のある学校 空港を利用した学校	
6	10		プールや図書館などの施設の市営化	管理を外部組織にすることで教師負担を減らす。施設が充実する。
7	1		小中一貫校を実現させる。	
7	2	1校ですべて	市街地中心の高層階の学校	通学はスクールバスで、津波・災害等から守る。
7	3		学校が1～3校？ スクールバス。学校に自由に入出りできる。	交通網の整備は絶対！

G	数	タイトル	意見	理由
7	4	単学級はやめて	中学校は2つ。(相良中・榛原中) 牧中は申し訳ありません。小学校は4つ(各中学校に2つの小学校)	小学校の単学級化をなくすことで、たくさんの人間関係を学ぶことができる
7	5		クラス替えをして新しい友達をつくれる学校	ずっと一緒では、新しい友達がつくれない
7	6		1学年1クラスがずっと続くとなった場合、同じ環境で過ごすことにメリットもあればデメリットもあると思う。一緒にいる友達や学びたいものが選択できなくなってしまうたら、すごく窮屈だと思う。そうなると市内・県外へ進学・就職したい人が増えるかもしれない。自分で選択していける教育環境があればよいと思う。	
7	7		一人の子どもに大勢の大人が関わって育ててもらいたい。 米作り、野菜作り、自動車、PC、外国語学の先生、歴史等	
7	8		勉強以外のことを学ぶ場 ・人と人のコミュニケーション ・思いやりの心 ・判断力、想像力、発想力、行動力	
7	9		学校に行くと楽しいことがある。 ・今日は体育がある。 ・友達と話すのが楽しい等	子どもたちが学校へ行く意義が持てるのが大事。勉強することも大事だが、それ以外のことも重要な時代になっているのかもしれない。
8	1	みんなで楽しく!! 年代を超えた交流	みんなが集まって楽しく遊べる学校	楽しいことは能力を伸ばしてくれる。保、小、中、高校、住民が集うことができる学校
8	2		小中高合同の学園祭	違う世代との交流を図る
8	3		各地域出身の生徒で祭を運営する	創造力、アイデア、団体行動、交渉力を身につけられる。優秀な地域は表彰される。

G	数	タイトル	意見	理由
8	4	牧之原大好き！ ⇒発信	学校の統廃合は時代の流れかな。統合後も地域とのつながりを忘れない教育を。地域の組織の統合とならないように。理想と現実の差があつては困るのでは…。	
8	5		集約された学校の基本目標を学校だけでなく、地域全体で共有化していく必要があるのでは。	
8	6		人・もの・こと 牧之原市でしかできない学びがある。各学校で行われている特色ある教育がなくなることなく、もっと地域がより参入し学校がより開放的になることで深まることを期待。	牧之原市っていいな～と思う子を育てていきたい。
8	7		人・もの・こと 牧之原市を愛する人(郷土人)【地方】、中央のことをよく知る物知りな人【最先端】、地域に還元している人	子どもの将来のお手本になるような人が学びに関わることで、牧之原市の学びや将来につなげる
8	8		人・もの・こと 新しいシステムに対応する(ICTの導入・活用)	電子黒板・教科書・タブレット等世の中は常に進化・変化していく。地方は動向は知っていても対応は遅れがち。なるべく世の中を反映させていく。
8	9	未来の予想が実現したように考えて行くことも必要	10～15年後の学校 ①少子化により人数が10人程度になっても地域のみなさんが協力して人間形成ができるような学校(静岡市大川小のような) ②親孝行できる教育(地域及び牧之原市の人口減少に歯止めを) ③英語教育は高学年から始めてほしい(日本語を大切に) ④少子化に対する対策を考えていただきたい。 ⑤小中一貫の前に幼保一貫教育の徹底。	
9	1	つながり(人と)	いろいろな人(友達、保護者、教員、地域の方)と触れ合い、関わり合いながら多くの経験(学習面・生活面)ができる学校。	これからの社会を生き抜いていく子どもたちにとっては、他と関わり、相手を尊重し認めていく心が大切であり、さまざまな体験は学びを深めたり、成長していくうえで、必要であるから。
9	2		学校間交流を頻繁に行う。	少子化が進んでおり、現在でもクラス替えすらない学校がある。そのことを補うため。
9	3	つながり(地域と)	地域と密着した活動を9年間の学びの中で必ず体験させる。カリキュラムを取り入れる。(小中一貫・キャリア教育)	牧之原市のもっとも優れた特色ある教育は、地域との連携(つながり)なので、それを市内のどの子にも体験・経験させたいから。

G	数	タイトル	意見	理由
9	4	集まる施設	地域を大切にするため、田沼塾をやれる中央公民館と小中一貫したk等 い久、地域の人と人のつながりを持つ学校	
9	5		学校は、10～15年後存続するのか。AIが進み、家庭で学習する。学校は週1くらい集まり、コミュニケーションづくりと対話の場所になるのではないか。通学したら楽しい場所が学校になればいいし、人員が減っても週1なので広い校舎もいらない。ただし、広い運動場や体育館は必要。思い切り遊べる場所づくりの学校。	
9	6		楽しい場所、対話、遊べるスペース ⇒人間力 勉強は家庭	
9	7	自治会残す活動	自治会は、小学校区の10区で今までの歴史・文化・伝統を大切に今まで通り、次回は10区で活動する。	
10	1		保幼小中高が1つにまとまった学園都市をつくる	
10	2		相良の人たちが集まりたくなる交通環境のよいところに(バイパス付近)に学校を集める。(相良総合G)	
10	3		牧之原に1校設置。スクールバス登校	
10	4		学校管理に地域雇用を増やす	
10	5		小学校低学年の学童がたくさん入れるスペース。時間を延ばす。(学童保育) 室内に食事できる場所や遊具がある。	
10	6		休日も自由に利用できる学校 ・図書館・体育館・グラウンド	
10	7		多目的な図書館・図書室等を充実してほしい。(学校内)	
10	8		休日等に子どもたちが遊べる学校にしてほしい。	
10	9		校舎内にコミュニティの場所をつくる。図書館、総合グラウンドを併せる。	
10	10		野球場がほしい	
10	11		もし学校が移転するなら跡地に牧之原の人が集まりたくなるような場所を！ 芝のサッカーグラウンドをつくる。	